

聖金曜日 (ヨハネ 18:1-19:42)

イエスは神の国の生き方で私たちを救われた



「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」(18・9)。中田神父はイエスの語られたことばに下を向くしかありません。一つは、イエスのことばを、私は今日まで見つけることができなかったからです。もう一つは、田平教会の七年間で、きっと何人もの人を失った、父なる神様が与えてくださった人を何人も失ったからです。

今年も私は受難の典礼を始めるにあたり、床にひれ伏しました。ただ今年は、「わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです」そういう思いからひれ伏してはいませんでした。ただひたすら、「あなたが与えてくださった人を何人も失いました」その後悔と、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

そして、主イエスが成し遂げたことに比べて、私が果たせたことはあまりにもつたないと感じたのです。主は「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言っているのに、私は「何人かは失ったかも知れない。けれどもその代わりにこれこれのことを成し遂げた」と強がっているのです。

主イエスは「一人も失いませんでした」と父なる神に感謝しますが、ご自身の命を失ってしまいました。主イエスにとって、ご自身の命をなげうってでも、御父が与えてくださった人々を一人も失わないことは大切でした。それなのに中田神父は、「何人かは失ったが、それを上回ることをした」と言い張っているのです。

どんなにイエスの思いから遠かったことでしょうか。イエスの思いを知らずに、こんなにも長い間主イエスに成り代わって祭壇上でいけにえをささげていたのです。どんなに恥知らずだったことでしょうか。そんな愚かな司祭のためにも、主イエスは十字架にかかってくくださったのです。

ここにお集まりの皆さんが、中田神父と同じような体験をしていたら、ここに集まっていることはすばらしいことです。今の今まで私たちは、自分だけは生き残ろうとしてきました。生きようとする人にとってそれは自然なことですが、この世の生き残り方では誰かが犠牲になってしまいます。私たちはどこかでそれに目をつむってきたのです。目をつむってきた私を、ここに、イエスさまのもとに連れていきましょう。

この世の生き残り方では、私もイエスを十字架に付けてしまいます。イエスは「羊のためにいのちを捨てる」方です。神の国の生き方で私たちを救ってくださったのです。私たちは神の国の生き方を忠実に生きられない弱さを認めます。

今はただ感謝しましょう。一人も失わないために、主は自らを犠牲にしてくださったのですから。私たちは一人も失わないよう全力を尽くしてくださった主によって生かされているのです。「生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものです。」(ローマ 14・8) 胸を打ちながら「主は私たちの救い」と唱えて、今日の典礼に最後まで参加することにしましょう。

復活徹夜祭(マタイ 28:1-10)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。